

## 「これからも司祭年」

助任司祭 林 正人

昨年の6月19日、イエスのみ心の祭日に始まった「司祭年」が、今月11日、同じみ心の祭日をもって終了します。聖ヨハネ・マリア・ビアンネを保護の聖人として頂く高円寺教会は、この1年間、特に熱心に司祭のために祈りを捧げてきました。祈っていただいた側の人間として、皆様に心から感謝申し上げます。

毎月、第一日曜のミサで共に唱えた「聖ビアンネに取り次ぎを願う祈り」の中に、次の一節があります。「司祭たちが賢明で謙遜な牧者として、勇気をもって神の愛をあかすことができますように」。司祭が“神の愛をあかす”その仕方には、どのようなものがあるのでしょうか。恐らく、皆様が司祭に対して「こうしてほしい」「こうすべきだ」と思われていること、その総てが、司祭の“神の愛をあかす”仕方なのでしょう。例えば、私はよく信徒の皆様に体調を心配されますが、健康な姿を見せることも“あかし”の一つなのかも知れません。

しかし、司祭として“神の愛をあかす”その第一は、やはりミサの司式でしょう。時々、「ミサを大切にする司祭、しない司祭」という言葉を耳にしますが、“ミサを大切にしない司祭”など、この世に存在しません。司祭だけに与えられる役割であるミサの司式、これは司祭の存在意義に関わることだからです。

司祭は一人でもミサを捧げることはできます。しかしミサの本質は、何よりも“共同体による、神への賛美と感謝の祈り”であり、共同体で祈るからこそ、司祭は真に“司式者”となります。つまり、司祭のミサを通しての“あかし”は、信徒の方々のミサへの参加があって、初めて成立するものなのです。皆様が、この私を“あかす司祭”にしてください。私が「主は皆さんと共に」と言い、皆様は「また司祭と共に」と返します。この皆様の応答が、弱い私に“神の愛をあかす”勇気を与えてくれるのです。

公式な「司祭年」は終わりますが、この高円寺教会では、「これからも司祭年」の気持ちで、司祭に“あかす”勇気を与え続けてください。「主は皆さんと共に！」